

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991200047		
法人名	株式会社 高木建材		
事業所名	グループホームぼぶら		
所在地	山梨県富士吉田市中曽根1-8-25		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 11 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 5 年 2 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>個人の尊厳を大切に自立支援。</p> <p>弊社基本理念である、「目配り・気配り・心配り」を基本に、「口を出さない・手を出さない・見逃さない」を実践し、利用者様方の残された能力の維持及び向上に努め、支援を行なっています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>個々の持てる力を大切に【できることはやる】の自立支援を理念にかかげ実践されていました。グループホームという集団の中で見守りを行い、個々の持てる力を大切にされていました。認知症のため伝わりにくいことにも寄り添い、気持ちを汲み取ることで利用者との信頼関係を築いていました。家族から面会希望があった時は、コロナ禍なので窓越しで、携帯電話を使って会話を交わしてもらうという方法で、面会を実施されていました。制限がある中にも何かできないかと、支援の向上に努められていました。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)(※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行ききたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援と個人の尊厳を尊重する観点から、弊社基本理念である、「目配り・気配り・心配り」に沿った、心に寄り添う介護を行なっている。	自立支援と個人の尊厳を尊重する観点から、弊社基本理念である、「目配り・気配り・心配り」に沿った、心に寄り添う介護を行なっている。	理念は【自分の自宅のように、本人ができることは自分で】を支援する【目配り、気配り、心配り】を掲げています。新人研修や職員会で周知され、利用者の心に寄り添う介護を行っていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会へ加入し、回覧板等を通じて、地域との情報交換を行なっている。また、地域の行事への参加を積極的に検討し、参加しているが、現在はコロナ感染予防のため自粛中。	地域の自治会へ加入し、回覧板等を通じて、地域との情報交換を行なっている。また、地域の行事への参加を積極的に検討し、参加しているが、現在はコロナ感染予防のため自粛中。	コロナ禍以前は地域と交流が行われ、富士山をかたどった発泡スチロールを使って、みんなで大きな神輿を作ったり、ちぎり絵の作品を文化祭に展示したりしていました。ボランティアの方がフラダンスやアコーディオン演奏などをしに来所し、月に2回ほどの交流ができていました。現在は感染予防のため関わりは持てていませんでした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	文化祭等、地域行事に積極的に参加したり、地域の方々が気軽に参加していただける夏祭り等イベントを行ない、地域の方々と交流し、様々な貢献をしているが、現在はコロナ感染予防のため自粛中。	文化祭等、地域行事に積極的に参加したり、地域の方々が気軽に参加していただける夏祭り等イベントを行ない、地域の方々と交流し、様々な貢献をしているが、現在はコロナ感染予防のため自粛中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度行なっている運営推進会議で、参加された方々からの意見及び、課題・評価を施設内でも分析し、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に一度行なっている運営推進会議で、参加された方々からの意見及び、課題・評価を施設内でも分析し、サービスの向上に努めている。	運営会議は2か月に1度、地域自治会長や民生委員の参加をお願いし、事業所の行事や利用者の様子、介護の状況が報告され、意見を募り介護の改善に努めていました。現在はコロナ感染予防の為、書面会議を行っていました。資料の送付には月1回発行されている「ぽぷら通信」が同封され、事業所での様子をお知らせし、情報の共有を図っていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各市町村担当者と適宜、メール等でコミュニケーションを取り、必要に応じて電話で連絡等、協力体制を築いている。	各市町村担当者と適宜、メール等でコミュニケーションを取り、必要に応じて電話で連絡等、協力体制を築いている。	市町村との連携は運営委員会等を通して、事業所や地域の感染状況、予防対策についての情報共有が行われていました。行政からの消毒液、予防着、マスクの提供を受けていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	規程等に身体拘束をしないことを記載し、実例は今現在ないが、やむを得ず行動制限等を行なった場合は、その理由・経過等記録を残すこととしている。また、3ヶ月に1回全職員対象で身体拘束対策委員会を開催し、適切なケアに取り組んでいる。	規程等に身体拘束をしないことを記載し、実例は今現在ないが、やむを得ず行動制限等を行なった場合は、その理由・経過等記録を残すこととしている。また、3ヶ月に1回全職員対象で身体拘束対策委員会を開催し、適切なケアに取り組んでいる。	身体拘束や虐待の研修は、勤務者の多い日に行っていました。利用者の不安定な様子、いつもと違う時の対応について検討されていました。毎日の介護や支援について、スピーチロックになっていないか、実例を上げ、検討がされていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	社内外での研修に参加することで、知識・学習の機会を持ち、利用者のケアに複数の職員が関わるので、互いにケア方法の適切さをチェックし合ったり、入浴時に全身観察を行なっており、虐待防止徹底を全職員で取り組んでいる。	社内外での研修に参加することで、知識・学習の機会を持ち、利用者のケアに複数の職員が関わるので、互いにケア方法の適切さをチェックし合ったり、入浴時に全身観察を行なっており、虐待防止徹底を全職員で取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネジャー等、権利擁護等有識者等からの車内研修及び、外部研修参加から、権利擁護について全職員で理解することに努めている。	ケアマネジャー等、権利擁護等有識者等からの車内研修及び、外部研修参加から、権利擁護について全職員で理解することに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、細部まで詳細を話し、随時質問を促すことで契約の内容についての理解・納得していただくよう努めている。	契約時には、細部まで詳細を話し、随時質問を促すことで契約の内容についての理解・納得していただくよう努めている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぼぽら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ伝える機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・面会時(現在はコロナ予防のため窓越しで行なっている)等、家族の意見・要望を聞く機会を設け、いただいた意見等は、随時施設運営及び、利用者対応へ反映させている。	運営推進会議・面会時(現在はコロナ予防のため窓越しで行なっている)等、家族の意見・要望を聞く機会を設け、いただいた意見等は、随時施設運営及び、利用者対応へ反映させている。	利用者や家族の意見はケアマネージャーが中心になって聞き取り、運営に反映されていました。コロナ禍のため面会が少なかった家族にも電話連絡を密にされていました。また日々の介護で利用者や寄り添い、困りを察し、改善に繋げていました。家族の要望で面会時、携帯電話で話かける方法がとられていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がいつでも自由に書き込める職員連絡ノートを設けたり、ケアスタッフ会議時等、随時全職員からの意見・提案を受け付けている。または、所長による全職員面談を定期的に行なっている。	職員がいつでも自由に書き込める職員連絡ノートを設けたり、ケアスタッフ会議時等、随時全職員からの意見・提案を受け付けている。または、所長による全職員面談を定期的に行なっている。	職員からの意見はノートを利用し、物品の使い方や購入について共有され改善につなげていました。個々の意見を聞くために入社後1か月ぐらいに所長との面会を行っています。所長は現場に入り、職員から直接意見を聞くなどもされていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨今の働き方改革からも参考に、働きやすく高定着率な職場環境構築を第一に捉え、勤務状況及び有給休暇取得日数等の把握・随時労働法改正に沿った規則の構築等、職員のやりがいにつなげるよう努めている。	昨今の働き方改革からも参考に、働きやすく高定着率な職場環境構築を第一に捉え、勤務状況及び有給休暇取得日数等の把握・随時労働法改正に沿った規則の構築等、職員のやりがいにつなげるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等に参加する機会を基本随時提供すると同時に、施設内でも所長等指導スタッフが先頭となって対応し(OJT)働きながら学習することが可能な環境となっている。	研修等に参加する機会を基本随時提供すると同時に、施設内でも所長等指導スタッフが先頭となって対応し(OJT)働きながら学習することが可能な環境となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨県グループホーム協会へ加盟し、協会主催見学会・研修会へ参加する等、同業者と交流する機会構築に努めている。現在はコロナ感染予防のため自粛中。	山梨県グループホーム協会へ加盟し、協会主催見学会・研修会へ参加する等、同業者と交流する機会構築に努めている。現在はコロナ感染予防のため自粛中。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の人生歴を概ね把握及び、理解した上で、利用者本人の現況を、本人の立場に立って勘定を行ない、職員で話し合い、利用者本人が快適に生活を行えるための関係構築に努めている。	利用者本人の人生歴を概ね把握及び、理解した上で、利用者本人の現況を、本人の立場に立って勘定を行ない、職員で話し合い、利用者本人が快適に生活を行えるための関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前・入所時等、家族用と話す機会を設け、希望・困りごと・質問等を把握し、入所後も定期的に連絡を取り合いながら、信頼関係構築を行ない、サービスの導入に反映させている。	入所前・入所時等、家族用と話す機会を設け、希望・困りごと・質問等を把握し、入所後も定期的に連絡を取り合いながら、信頼関係構築を行ない、サービスの導入に反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人・家族と密に連携を行ない、その都度ニーズとしている内容を的確に見極め、対応を行なっている。	利用者本人・家族と密に連携を行ない、その都度ニーズとしている内容を的確に見極め、対応を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	弊社基本理念に沿いながら、利用者それぞれのペースに合わせた支援を行なっており、日常生活においても、洗濯・食事用意片付等、職員と共に行なう機会を提供するように努めている。	弊社基本理念に沿いながら、利用者それぞれのペースに合わせた支援を行なっており、日常生活においても、洗濯・食事用意片付等、職員と共に行なう機会を提供するように努めている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に連絡を取り合っており、コロナ感染予防下でも意欲して面会等、利用者と家族が会える機会を設け、環境を整えている。また、施設内庭等、外への行き来も自由に行えるようにしている。	定期的に連絡を取り合っており、コロナ感染予防下でも意欲して面会等、利用者と家族が会える機会を設け、環境を整えている。また、施設内庭等、外への行き来も自由に行えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の希望に沿って、ご自宅まで車で行き、ポストを覗いたり、庭の草取りをしたり、通りかかったご近所の方と話をされたりする。	利用者本人の希望に沿って、ご自宅まで車で行き、ポストを覗いたり、庭の草取りをしたり、通りかかったご近所の方と話をされたりする。	コロナ禍なので、馴染みの方や地域への関係は制限されていました。感染が落ち着いている時には少人数でのドライブ外出を行っていました。これから気候も良くなってくるので、感染の様子を見ながら、お花見などの外出を検討されるようです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の環境をよく観察し、リビングルームの席決めに配慮を行っていたり、利用者同士で話しているところへ職員が入って話を聞いたり、利用者同士での信頼関係構築の支援を行っていたり。	普段の環境をよく観察し、リビングルームの席決めに配慮を行っていたり、利用者同士で話しているところへ職員が入って話を聞いたり、利用者同士での信頼関係構築の支援を行っていたり。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	弊社を利用されていた方々から、謝礼と合わせて差し入れを持って弊社へ来て職員と話をされたり、よい関係を継続するように努めている。また、入院時には、医療関係者と情報提供を行ないながら、家族の相談等対応を行っていたり。	弊社を利用されていた方々から、謝礼と合わせて差し入れを持って弊社へ来て職員と話をされたり、よい関係を継続するように努めている。また、入院時には、医療関係者と情報提供を行ないながら、家族の相談等対応を行っていたり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者ごとに、思い・希望・意向を聞いて把握及び、周知を行ない、ケア会議で情報を共有し、プランニングに反映を行ない、その利用者に沿ったケアを行うことに努めている。	職員は利用者ごとに、思い・希望・意向を聞いて把握及び、周知を行ない、ケア会議で情報を共有し、プランニングに反映を行ない、その利用者に沿ったケアを行うことに努めている。	認知症の方の思いの汲み取りが難しいこともあり、職員にリーダー的な立場を置いて、どんな方法の傾聴がいか話し合いながら、思いの汲み取りを行っていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時・随時行っている面会・利用者本人との日常会話等、様々な機会から情報を得ることに努め、その情報の共有を行っていたり。	インテーク時・随時行っている面会・利用者本人との日常会話等、様々な機会から情報を得ることに努め、その情報の共有を行っていたり。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時の利用者本人の基本情報をもとに、最新状況と合わせて、生活のパターン・嗜好・ADL等の情報の収集及び、共有を行っていたり。	入所時の利用者本人の基本情報をもとに、最新状況と合わせて、生活のパターン・嗜好・ADL等の情報の収集及び、共有を行っていたり。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員それぞれが感じた課題・適すると思われるケア方法等を、利用者ケア会議・職員ミーティング等で話し合い、利用者本人・家族の意見等も踏まえて、介護計画作成を行っていたり。	職員それぞれが感じた課題・適すると思われるケア方法等を、利用者ケア会議・職員ミーティング等で話し合い、利用者本人・家族の意見等も踏まえて、介護計画作成を行っていたり。	本人、家族、職員で情報の共有を行い、毎日の生活が気持ちよく過ごせるような計画になっていました。計画には訪問医の意見も参考にされ、健康で過ごせる様、個々の特性が発揮できる計画を検討されていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの介護記録書に日々の記録を残すことを徹底し、その情報を職員で共有することにより、統一された支援・ケア及び、介護計画見直し等へ反映して活かすことに努めている。	利用者ごとの介護記録書に日々の記録を残すことを徹底し、その情報を職員で共有することにより、統一された支援・ケア及び、介護計画見直し等へ反映して活かすことに努めている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぼぷら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時に職員が付き添い、身体状況等現状を医師へ伝えたり、家族のみで受診する場合は、直近のバイタル・身体状況等現状を記録して渡して、受診に役立てていただいている。	病院受診時に職員が付き添い、身体状況等現状を医師へ伝えたり、家族のみで受診する場合は、直近のバイタル・身体状況等現状を記録して渡して、受診に役立てていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に、地域傾聴ボランティア等各団体と交流・地域行事参加等行なっているが、現在コロナ予防のため、自粛及び、遠慮していただいている。	日常的に、地域傾聴ボランティア等各団体と交流・地域行事参加等行なっているが、現在コロナ予防のため、自粛及び、遠慮していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人・家族が主治医の選択を行なっている。弊社では、選択された主治医病院と連携を取り合いながら、信頼関係構築を随時行なっている。	利用者本人・家族が主治医の選択を行なっている。弊社では、選択された主治医病院と連携を取り合いながら、信頼関係構築を随時行なっている。	入所時に本人、家族とかかりつけ医の確認を行っています。家族との通院にはケアマネージャーも同行され、健康の情報共有を行っていました。多くの利用者は協力医の往診を月2回受け、また必要に応じた受診も行われていました。デイサービスの看護師の協力もあり、コロナ禍でもしっかりとした健康管理ができていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ利用者ごとに身体状況等情報を伝達し、日頃から相談することにより、適切なケアを行なうよう努めている。	看護師へ利用者ごとに身体状況等情報を伝達し、日頃から相談することにより、適切なケアを行なうよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合、定期的に病院担当者と連絡及び情報交換を行ない、退院後も心配なく生活が可能となるよう病院関係者との綿密なコミュニケーションを取っている。	利用者が入院した場合、定期的に病院担当者と連絡及び情報交換を行ない、退院後も心配なく生活が可能となるよう病院関係者との綿密なコミュニケーションを取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、現状で可能な限り事業所として対応支援することを契約時に確実に話している。また、終末期となった場合での対応についても、主治医の意見・方針を聞いて反映させ、対応することの同意を契約時にもらっている。	重度化した場合、現状で可能な限り事業所として対応支援することを契約時に確実に話している。また、終末期となった場合での対応についても、主治医の意見・方針を聞いて反映させ、対応することの同意を契約時にもらっている。	重度化やターミナルの対応も、入所時に本人や家族と確認されていますが、健康状態に応じた希望の医療がなされていません。ターミナルでの他施設希望はなく、グループホームでできる終末期の支援が、家族に協力をあおぎながら行われていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時及び事故発生時の対応は、基本的にマニュアルに沿って対応するように努めている。また、全職員は応急手当・病院連絡・初期対応等訓練を定期的に行ない、どんな状況でも対応が可能となるように努めている。	緊急時及び事故発生時の対応は、基本的にマニュアルに沿って対応するように努めている。また、全職員は応急手当・病院連絡・初期対応等訓練を定期的に行ない、どんな状況でも対応が可能となるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行ない、夜間等想定して非常時に備えている。また、地域の方々との協力体制構築については、運営推進会議等で議題に挙げて考案を行なっている。	避難訓練を年2回行ない、夜間等想定して非常時に備えている。また、地域の方々との協力体制構築については、運営推進会議等で議題に挙げて考案を行なっている。	市との協定で第2避難所になっています。物品の備蓄管理をし、地域との協力体制ができていました。ハザードマップの対象にはなっていませんが、地域の方が協力して下さる時のために、利用者の移動手段をわかりやすく表示する検討がされていました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの人生歴・人格等を把握及び尊重し、言葉使い・プライバシー等尊厳に配慮することに努めている。	利用者それぞれの人生歴・人格等を把握及び尊重し、言葉使い・プライバシー等尊厳に配慮することに努めている。	一人ひとりの生活を大切にしながら、理念に掲げられている自主性を尊重し【口を出さない、手を出さない、見逃さない】を守りながら、利用者の心に添った支援をされていました。認知症であまり意思表示をされない方には、寄り添いながら、できることの声掛けを行っていました。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぼぼら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常時利用者ごとにコミュニケーションを取り、利用者それぞれの希望等を聞くように心がけ、思いを受け止めながら希望を実現することを職員間で話し合っている。	常時利用者ごとにコミュニケーションを取り、利用者それぞれの希望等を聞くように心がけ、思いを受け止めながら希望を実現することを職員間で話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心の支援を心がけ、その人らしい生活が行えることを第一とし、職員側の都合を押しつけないように配慮している。	利用者中心の支援を心がけ、その人らしい生活が行えることを第一とし、職員側の都合を押しつけないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のクローゼットを共に見ながら、その日の気温、天気等、話をしつつ共に洋服を選んだり、整髪・整容等を日々行なっている。	利用者のクローゼットを共に見ながら、その日の気温、天気等、話をしつつ共に洋服を選んだり、整髪・整容等を日々行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・食器後片付け等は、利用者ごとに意欲と能力に合わせて役割を分担し、可能な限り利用者と協力して行えるように努めている。	調理・食器後片付け等は、利用者ごとに意欲と能力に合わせて役割を分担し、可能な限り利用者と協力して行えるように努めている。	以前は三食事業所で調理していましたが、現在夕食のみ委託されています。行事食、希望食、テイクアウトに対応し、楽しい食事の提供ができていました。テイクアウトの時は、盛り付けや食器の片付けを職員と一緒に、役割を持って行っていました。コロナ禍以前は外食でお寿司など楽しまれていましたが、感染対策で出来ていません。希望食に力を入れていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段の食事をしっかりと観察し、食事量及び、水分量等、利用者それぞれの課題を職員間で共有し、嗜好品を取り入れたり、トロミ・食形態を見直し、介助方法等を検討しつつ、経口接種継続の支援を行なっている。	普段の食事をしっかりと観察し、食事量及び、水分量等、利用者それぞれの課題を職員間で共有し、嗜好品を取り入れたり、トロミ・食形態を見直し、介助方法等を検討しつつ、経口接種継続の支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ない、自分で磨ける利用者には歯磨きを行なっていただき、その後職員によるチェックを行ない、必要に応じて口腔ケアを行なっている。自分では不可能な利用者については、職員が必ず毎食後に口腔ケアを行なっている。	毎食後、口腔ケアを行ない、自分で磨ける利用者には歯磨きを行なっていただき、その後職員によるチェックを行ない、必要に応じて口腔ケアを行なっている。自分では不可能な利用者については、職員が必ず毎食後に口腔ケアを行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者排泄記録を参考に、利用者それぞれの生活習慣・リズムに配慮したトイレ誘導等を行ない、可能な限り自立での排尿及び、排便を促し、支援を行なっている。	利用者排泄記録を参考に、利用者それぞれの生活習慣・リズムに配慮したトイレ誘導等を行ない、可能な限り自立での排尿及び、排便を促し、支援を行なっている。	個々にあった排泄支援に力を入れ、気持ち良く快適な生活が送れるようにされていました。排便が整うように体操や、食事に牛乳を積極的に取り入れるなどしていました。気持ちの良い毎日を送れるよう自立での排泄支援を行い、リハビリパンツから布パンツに改善出来るよう努めていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者日々記録・排泄記録をチェックしつつ、便秘気味な利用者へは、水分を多めに摂取していただいたり、体操等運動も取り入れ、便秘改善に努めている。また、医師指示により、内服薬の見直しを行なっている。	利用者日々記録・排泄記録をチェックしつつ、便秘気味な利用者へは、水分を多めに摂取していただいたり、体操等運動も取り入れ、便秘改善に努めている。また、医師指示により、内服薬の見直しを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	可能な限り利用者それぞれの希望に沿った入浴を心がけているが、利用者の身体状況及び、職員配置状況によっては、施設側で入浴時間を決める場合がある。	可能な限り利用者それぞれの希望に沿った入浴を心がけているが、利用者の身体状況及び、職員配置状況によっては、施設側で入浴時間を決める場合がある。	入浴は週2回の支援で行われていますが、その他にも希望で対応されていました。機械浴の設備もあります。体調不良で下痢等されている方にはシャワー洗浄を行っていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングルームについては、21時前後で消灯しているが、利用者各居室については、特に決まりはなく自由となっており、それぞれ制限等なく気持ちよく睡眠を取れるよう支援を行なっている。	リビングルームについては、21時前後で消灯しているが、利用者各居室については、特に決まりはなく自由となっており、それぞれ制限等なく気持ちよく睡眠を取れるよう支援を行なっている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぼぷら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者それぞれの服薬状況及び、症状の変化を把握、情報を共有し、主治医・家族等に随時報告を行っている。	利用者それぞれの服薬状況及び、症状の変化を把握、情報を共有し、主治医・家族等に随時報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々充実感を持って暮らせるよう、レクリエーション・食事後片付け・洗濯等、利用者それぞれに何らかの役割を持っていただいたり、絵画等趣味としていたことに取り組みでいただくよう配慮及び、支援を行なっている。	日々充実感を持って暮らせるよう、レクリエーション・食事後片付け・洗濯等、利用者それぞれに何らかの役割を持っていただいたり、絵画等趣味としていたことに取り組みでいただくよう配慮及び、支援を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等、日常的に行なっており、利用者から自宅の庭状況を見たい等語があった場合は、可能な限り職員が同行し、連れていく等支援を行なっている。現在はコロナ感染予防のため、極力遠慮していただいている。	散歩等、日常的に行なっており、利用者から自宅の庭状況を見たい等語があった場合は、可能な限り職員が同行し、連れていく等支援を行なっている。現在はコロナ感染予防のため、極力遠慮していただいている。	施設内や富士山の見える場所まで、職員と散歩に出かけていました。近くにドラッグストアがあり、買い物に出かけることもありました。利用者や家族からの外出希望はありますが、コロナ禍のために自粛されていました。感染予防を行い、少人数で車外出は行っていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者及び利用者家族から同意をいただき、預り金制度を設けており、随時必要に応じて職員同行のもと、利用者が買いたい物を買いたいときに買えるように支援を行なっている。	利用者及び利用者家族から同意をいただき、預り金制度を設けており、随時必要に応じて職員同行のもと、利用者が買いたい物を買いたいときに買えるように支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者それぞれの能力に応じて対応しているが、本人からの希望があった場合、手紙のやり取り及び、適切に電話がかけられるように支援を行なっている。	利用者それぞれの能力に応じて対応しているが、本人からの希望があった場合、手紙のやり取り及び、適切に電話がかけられるように支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は吹き抜けになっており、自然光が差し込み、居住する面積にも余裕がある。また、季節によって装飾品を変更してみたり、高性能空気清浄機も設置され、不快な臭い等もない。その他、快適な居住の空間の作成に努めている。	共有空間は吹き抜けになっており、自然光が差し込み、居住する面積にも余裕がある。また、季節によって装飾品を変更してみたり、高性能空気清浄機も設置され、不快な臭い等もない。その他、快適な居住の空間の作成に努めている。	各ユニットの共有スペースは自由に行き来ができ、交流もしています。共有スペースは利用者の作品や季節を感じる展示品があったり、植物が置かれていました。利用者の希望で、他のユニットの方と食事をされる姿がありました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に、テーブル・ソファ等を設置し、利用者それぞれの好みに応じて居場所を選択していただくよう対応及び、配慮を行なっている。	共有空間に、テーブル・ソファ等を設置し、利用者それぞれの好みに応じて居場所を選択していただくよう対応及び、配慮を行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の装飾及び、使い慣れた備品等の持ち込みは自由となっているため、利用者の馴染みの品・家具等を持ち込み、居心地よく暮らせるよう支援を行なっている。	居室の装飾及び、使い慣れた備品等の持ち込みは自由となっているため、利用者の馴染みの品・家具等を持ち込み、居心地よく暮らせるよう支援を行なっている。	今までの生活を大切に、今まで使っていたテーブル、いす、ぬいぐるみ、仏壇、家族写真が持ち込まれ、居心地の良い居室になっていました。毎日の食器の茶わん、お椀、湯飲み、箸類は今まで使っていたものを使われていました。集団の中でも個々の生活を大切にされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の戸とトイレ戸の色分け、手すりの配置、動線確保・ベランダ側から庭へと続く空間の設置等、工夫を凝らし、配慮を行なっている。	居室の戸とトイレ戸の色分け、手すりの配置、動線確保・ベランダ側から庭へと続く空間の設置等、工夫を凝らし、配慮を行なっている。		